

オリジナル設計を退職しました

オリジナル設計株式会社を退職しました

令和6年3月末をもってオリジナル設計株式会社（証券コード：4642）を退職した。博士の学位を取得すぐに入社後、上水道の計画業務に4年間従事し、この間に主担当として上水道の定型的な計画業務（ビジョン、アセット、経営戦略、基本計画、管網解析、料金改定、認可）を全て経験できた。また、水コン協の技術研究発表会では、オリジナル設計史上初の最優秀発表賞を受賞することができた。本当はもう数年長く在籍したかったが、私自身のライフステージや社内環境に大きな変化があり、今回の決断に至ることとなった。

尊敬できる師との出会い

これまで、とある東京都職員との出会いに始まり、学部・大学院の教員との出会いが私の人生を良い意味で変えてきた。オリジナル設計では、社会人として最初の師匠である上水道部長が私の人生をより良い方向に導いてくれた。4年の間に4人の課長を上司として経験したが、部長はその方で一貫していた。

部長は計画だけでなく、設計にも精通していて、私の在籍中に大学院に通いながら学位を取得するスーパーマンである。水道に対する熱意も高く、私の話も高いレベルで理解してくれる上司で、共に困難な業務を乗り越えてきた戦友でもあった。私の取り扱い方を誰よりも理解し、適切な時にアドバイスをくれる上司で、自己研鑽に終わりがいいことを背中で見せてくれる人だった。そして、私も親離れの時期を迎えた。まだまだ道のりは長いですが、将来はこの部長のように他人に影響を与えられる人間になれるよう修行を続ける。

仕事への向き合い方

私自身は恩師である小泉明先生がしばしば口にする「世のため人のため」を基本理念とし、水道業界全体の発展を目的に論文執筆や委員会活動を続けてきた。また、「コンサルは常に顧客よりも上に立つべし」という意識のもと、自己研鑽を続け、業務をとおして多くの顧客から信頼を勝ち得ることができた。

新規業務に丸腰で挑む勇者もいるが、業務は研修の場ではなく、それでは顧客が委託を出す意味はない。確かに経験のない新規業務は怖いですが、関連指針や類似業務の報告書を徹底的に研究し、手順やポイントを学び、その不安を払拭してから業務に取り組んできた。業務は研鑽した成果をアウトプットする場であり、ここまでしてようやく顧客から勉強した以上のインプットを引き出すことができた。こうした姿勢が顧客にも伝わるとそれが信頼に繋がり、やがてファンになってくれるという経験をこの4年間で積むことができた。

社内外にファンができました

退職を直前に控えた3月は納品の嵐であった。付き合いの長い顧客には私の退職を伝えており、別れを惜しみつつも、また一緒に仕事をしたいと言ってくれた。嬉しいことか悲しいことか、「長谷川さんが居ないならもう発注しない」とまで言う顧客もおり、ファンの方々には感謝である。

社内にも私の個性を認め、尊敬してくれる人を多く見つけることができた。私をイチローと称し、退職後も何かと面倒を見てくれる情熱家である最初の上司、私と同類の「変態」で財政周りの師匠であったプロ、上水道計画分野の兄弟子をはじめとしたイケてる九州男児達、役場の元部長で顧客の目線から話ができる営業担当、ワンオペで業務に挑まざるを得ない私を徹底的にサポートいただいた補助員の方々など、挙げたらきりがいい。こうした方々にはどこかで恩返しができたらいいなと考えている。

若手に残せたもの

オリジナル設計の4年間で若手社員が下に就くことがなく、技術的な部分を教える機会は得られなかった。ただ、若いうちは技術よりも先に述べた業務への取り組み方（マインドセット）の定着がまず大事で、ここを間違えなければ技術は後からついてくると考え、とにかく仕事への向き合い方を見て学んでもらえるように努めた。会社としてもこうしたテーマの対談を設けてくれたりもしたが、果たしてどこまで浸透しただろうかという気持ちは退職直前まで残ったままだった。

そうした気持ちを持って迎えた最後の納品でとある出来事があった。単年度にしては業務量が多い委託があり、その納品をなんとか納期前日に終えることができた。納品には若手の営業と私の2人が出席したが、顧客側は上下水道部長も含め関係者全員が出席いただいた。我々は少し身構えていたが、顧客からは短い納期で高品質な成果品を納めていただいたことへの感謝と私の今後の活躍を願うという言葉をいただいた。検討内容の難易度も高い業務であったが、オリジナル設計での最後の仕事がこの事業体で本当に良かったと感じた瞬間であった。

そんな納品があった後、私の最後ということもあり、若手営業と私の2人は渋谷の飲み屋で飲み会をすることになった。思い出話や業務の引き継ぎ話に花を咲かせ、その日の納品に話が移ると、若手営業がその時の心情を明かしてくれた。「今日の納品はこれまでに最高の納品だった。いい仕事をするこんなことがあると知れた。感動した。」と。こうした言葉の背景にも色々あり、本人も他業務で苦労があったのだろう。また、「他の若手も私の仕事ぶりを尊敬してくれている」とも教えてくれた。こんな私にも若い人に残せたものはあったのだなと心が少し軽くなった。

長谷川のこれから

次の会社は6月から入社予定であり、4・5月は入社に向けた準備や旅行に時間を充て、新生活のスタートをいい形で切れるように準備を進めていく。

私個人としては、基盤強化の一丁目一番地はやはり中小事業体にあると考えており、こうした事業体のサポートは今後も続けていく。さらに、私個人の研究開発力を活かした政府機関との仕事の機会を増やしていく。こうした活動をとおして私のファンがもっと増やせれば幸いである。

転職活動中には、多くの企業から魅力的なオファーをいただいた。私の体がいくつもあれば全ての会社にお世話になりたかったが、残念ながら入社を辞退しなくてはならなかった。しかし、これらの会社からも「今後は是非一緒に仕事をしましょう」、「次の転職の機会には是非」といった暖かい言葉をいただいた。こうした会社にも成長した私の姿を見せられるように、次の会社でも変わらず自己研鑽を続けていく。

最後に、私自身を鼓舞するためにも次の会社で取得すべき資格を書き記しておく。

- 技術士（上下水道）
- 技術士総監
- TOEIC 800点以上
- 運転免許